

生きものの恵みを
いっぱい感じるまち
藤沢にするために



ふじさわ し せいぶつ た ようせい ち いきせんりゃく がいようばん
「藤沢市生物多様性地域戦略」概要版
2018 年 (平成30年) 11 月 ふじさわ し 藤沢市



せいぶつ た ようせい 生物多様性って なんだろう？

せいぶつ た ようせい 「生物多様性」とは

きれいな空気、すんだ水、安全でおいしい食べ物など、人間が生きていくためになくてはならないものは、みんな生きものや自然の恵みです。

生きものは地球たんじょうからの長い時間をかけて、いろいろな場所（森や草原や川や海など）に、生きものどうしが助け合いやきょうそうをしながら、たくさんの種類を生み出していっしょに生きてきました。これが「生物多様性」ということです。このおかげで、人間は地球上のいろいろな場所で、さまざまな生きものの恵みを受けとることができます。

ところが最近、「生物多様性」への5つのえいきょうで生きものの恵みがこわれたり、なくなったりしています。このままだと、人間は生きものの恵みを受けとれなくなるかもしれません。

せいぶつ た ようせい 「生物多様性」への5つのえいきょう

第1のえいきょう たくさん木を切ったり、山をけずったり、海や田んぼをうめたと、生きものが生きていく場所がなくなってしまう。

第2のえいきょう 森や林や草地の手入れをしなくなると、森や原っぱの様子が変わってしまい、今までそこを好んで生きていた生きものがいなくなってしまう。荒れてしまった森は、生きものがすみにくく、災害にも弱くなる。

第3のえいきょう 海外や日本のほかの場所から持ちこまれた藤沢にいなかった生きものを外来生物という。外来生物は作物や藤沢の生きものを食べたり、たくさん増えてもともと生きていた生きものを追い出してしまう。逃げたりはなしたりしたペットが原因で、そんなことがおこっている。

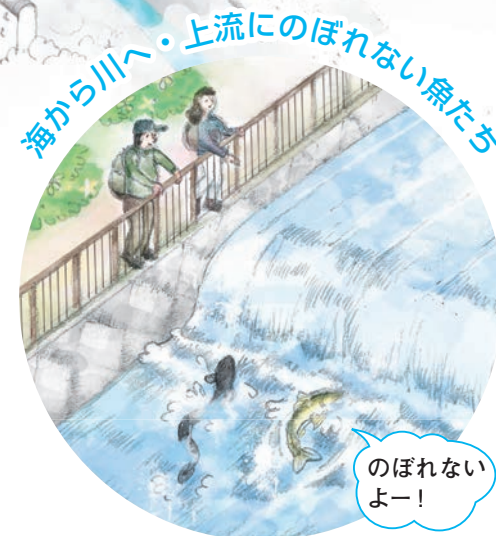
第4のえいきょう いつもよりずっと気温があがること、今までにないくらいたくさん大雨がふることなどが地球全体でおこっている。このことが原因で、災害がおこったり、生きものがすむ場所が変わったり、いなくなったりしている。

第0のえいきょう そしてもっと重大なこと。人間が生きていくためには「生物多様性」がなくてはならないことを知らないこと。すると、わざとじゃなくても、知らないうちに「生物多様性」をこわしてしまう。

げん ざい 現在の藤沢



せいぶつ た ようせい
「生物多様性」
この言葉を
覚えよう！



みらい 未来の藤沢

生きものの恵みをいっぱい感じるまち藤沢

生きものの恵みにありがとう



農家の人は、畑や田んぼで作物を育て、漁師の人は、海で魚をつかまえます。その恵みを運ぶ人、売る人、料理する人がいて、わたしたちは栄養いっぱいのおいしい生きものの恵みを食べています。藤沢でとれるしんせん食べ物は、遠くから運ばなくてよいのでかんきょうにもやさしい生きものの恵みです。

上流下流がつながり・川はゆたかに



生きものが海と川を自由に行き来できる川には、たくさんの生きものがすむことができます。また、岸辺の植物には、川の水をきれいにするはたらきもあります。自然観察会など自然とふれあう場所にもなります。

森の手入れがされて、よみがえる「生物多様性」



森の中にたまったかれ木を運び出し、ぼうぼうの草をとって森の手入れをすると、いろいろな植物が生える場所になります。そして、虫が集まり、鳥や動物も森に帰ってきます。森が生き返ると、ふかふかで、栄養たっぷりの土ができ、根がしっかりとりのびて強い地面になります。

森の生きものとはなかよし



生きものが帰ってきた森で、たくさんの生きものが生きているすがたを、目、耳、鼻、全身で感じてみましょう。お花見、お祭りなどの行事を楽しみ、自然を絵や歌にあらわして、心ゆたかにくらしてみましよう。

みんな元気な藤沢の生きものたち



森・川・海がつながって、生きものが安心してすめる場所ができて、藤沢で昔から生きている生きものが元気になります。まちの中にみどりが増えて、風の通り道ができ、暑さ寒さもやわらぎます。

ふじさわの せいぶつ たようせい 生物多様性を 守っていくために

「生きものの恵みをいっぱい感じるまち藤沢」をめざして

どうしたら「生物多様性」を守って、いつまでも生きものの恵みを受けることができるのでしょうか。
ひとりひとりが考えて、みんなで取り組むことが大切です。
そこで、4つの目標と、それぞれの目標をかなえるための取組みを考えました。

「江の島のニケ」：ビャクシンの樹／南の磯から海食崖を見上げる

波乗り／片瀬西浜



中心市街地／藤沢駅



江ノ電／片瀬



富士夕景／善行



1 「生物多様性」を守ろう

藤沢は大きなまちですが、藤沢らしい自然がたくさん残されています。それを守り、育てて、なくさないようにします。

- 藤沢の自然のすがたをこれからも調べ続けよう。
- 藤沢の緑を残し、緑や水辺の自然をゆたかにしよう。
- 「生物多様性」を守る取組みに参加し、仲間をふやそう。
- 「生物多様性」のことを考えたまちに変えていこう。
- 「外来生物」について知ろう。つきあいかたを考えよう。

2 暮らしの中で行動しよう

藤沢には43万人の市民がくらしています。そのひとりひとりが毎日の生活をよく考えなおして、生物多様性のためによくなることをひとつでも実行したら、生きものの恵みをいっぱい感じるまちになります。

- 藤沢にくらすみんなが「生物多様性」の大切さを教えあおう。
- 「生物多様性」のことを考え、みんながつながる場を作ろう。
- 藤沢にくらすみんなが「少しずつできること」のアイデアを出しあおう。

3 仕事の中で考え、実行しよう

藤沢には田んぼや畑があり、漁港や観光地もあります。商店や工場があり、たくさんの人が働いています。その人たちが自分の仕事場で「生物多様性」のことを考えて、できることを実行したら、藤沢だけでなく、日本や世界の生きものの恵みを助けます。

- 藤沢の農業や水産業にきょうみをもって、みんなでささえていく仕組みをつくろう。
- 「生物多様性」のことを考えて、商業、工業を進めよう。
- 「生物多様性」のみりよくをいかした観光地にしていこう。

4 子どもたちに伝えよう

大人が子どもたちに生きものや自然とつきあう知恵を伝えれば、子どもたちが生きものと仲良くなって、「生物多様性」に明るい未来が見えてきます。

- 「生物多様性」のことを学ぶ場所と時間をふやそう。
- 藤沢市内のいろいろな場所で「生物多様性」を守り・伝える人をさがそう、育てよう。



社寺林／江の島



樹林地管理活動／稲荷の森



企業による樹林地管理／稲荷の森



地曳網／鵠沼海岸



地曳網の成果／鵠沼海岸



トウキョウダルマガエル／大庭の水田 稲穂／石川丸山谷戸

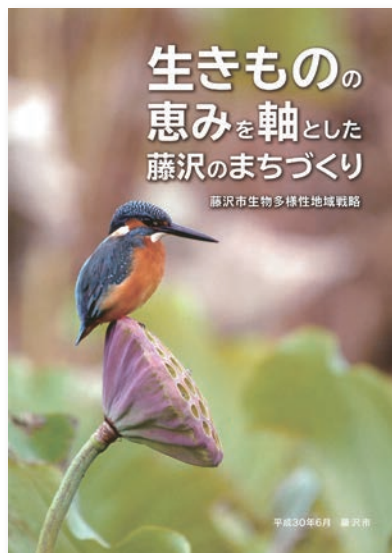


モクズガニ／境川



自然観察会／引地川親水公園

ふじさわ し せいぶつ た ようせい ち いきせんりゃく
「藤沢市生物多様性地域戦略」について



「藤沢市生物多様性地域戦略」表紙

このパンフレットのもとになる計画で、もっとくわしい説明が書かれています。

●ホームページ／
<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/midori/seibutsutayousei2.html>

●市役所「市民相談情報課」と「文書館」で購入できます。
一冊700円

編集／藤沢市都市整備部みどり保全課
写真／富岡真里子、永吉 勝、麻生和宏
イラスト作成／アート稲元
印刷／藤原印刷

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

「藤沢市生物多様性地域戦略」目次（抜粋）

第1章 はじめに

1. 生物多様性とは
 - (1) 「生物多様性」とは
 - (2) 3つのレベルの「生物多様性」
2. 「生態系サービス」とは
 - (1) 4つの「生態系サービス」
 - (2) 私たちの暮らしを支える「生態系サービス」
 - (3) 産業経済活動を支える「生態系サービス」
3. 生物多様性に関する4つの危機
4. 経済界にも波及しはじめた生物多様性の考え
 - (1) SDGs（持続可能な開発目標）
 - (2) ESG（イーエスジー）投資
 - (3) ISO14001
5. 生物多様性の危機回避に関する国内外の動き
 - (1) 国内外の動き
 - (2) 愛知目標
 - (3) 国内における「生物多様性地域戦略」の策定状況
 - (4) 「かながわ生物多様性計画」の概要

第2章 藤沢市におけるこれまでの生物多様性保全の取組

1. 「藤沢市ビオトープネットワーク基本計画」の策定
2. 「藤沢市自然環境実態調査」の実施
3. 藤沢市における「生物多様性の4つの影響」
4. 「生物多様性のもう一つの影響」～第0の影響～
5. 「藤沢市生物多様性地域戦略」策定のねらい
6. 「藤沢市生物多様性地域戦略」の考え方と柱
 - (1) 「藤沢市生物多様性地域戦略」の考え方
 - (2) 「藤沢市生物多様性地域戦略」の柱
7. 「藤沢市生物多様性地域戦略」の位置づけ
8. 「藤沢市生物多様性地域戦略」の対象地域
9. 「藤沢市生物多様性地域戦略」の計画期間

第3章 藤沢市の生物多様性の状況

1. 藤沢市の自然的風土の特色
 - (1) 北の台地と南の低地、2つの河川と海岸、そして江の島
 - (2) 藤沢市の気候
2. 藤沢市が今日の姿に至った経緯
 - (1) 高度経済成長期までの風土に合わせた人々の生活
 - (2) 高度経済成長期以降のまちの発展と暮らしの変貌
 - (3) 拡大する自然への負荷と生物多様性の喪失
3. 藤沢市の現在の状況と今後の課題
 - (1) 藤沢市民と生物多様性との関わり
 - (2) 事業活動と生物多様性との関わり
 - (3) 土地の特性と災害発生の関係
 - (4) 子どもたちと地域の自然
 - (5) 2度の藤沢市自然環境実態調査結果からみる自然
 - (6) これから取り組むべき課題

第4章 基本方針

1. 将来像（目標）
2. 基本方針

第5章 施策

1. 施策体系
 - (1) 基本方針と施策の方向性
 - (2) 施策
 - (3) 主な取組（事業）
 - (4) 重点プログラム
2. 施策の展開
3. 重点プログラム
 - (1) 普及啓発と協働の推進にあたっての取組の方向性
 - (2) (仮称)藤沢市生物多様性センター機能の目的
 - (3) (仮称)藤沢市生物多様性センター機能の役割

第6章 体制、進行管理

1. 体制
2. 進行管理

資料編

用語解説